

I 調査の実施状況

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

- 小学校調査
 - ア 教科に関する調査：令和8年4月23日（木）
 - イ 児童質問調査：令和8年4月24日（金）～5月8日（金）期間実施
- 中学校調査
 - ア 教科に関する調査：【国語・数学】令和8年4月23日（木）
【英語】「読む・書く・聞くこと」調査
令和8年4月20日（月）～23日（木）期間実施
「話すこと」調査
令和8年4月24日（金）～5月29日（金）期間実施
 - イ 生徒質問調査：令和8年4月20日（月）～23日（木）期間実施

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※ 数値は、調査日に実施した公立学校数及び公立学校児童生徒数（義務教育学校を含む。）

	県受検者数（受検校数）	全国受検者数（受検校数）	実施教科等
小学校第6学年	14,482人（346校）	922,778人（18,077校）	国語・算数・質問調査
中学校第3学年	13,382人（152校）	842,491人（9,146校）	国語・数学・英語・質問調査

※ 政令指定都市である岡山市は、義務教育の実施について、財源や人事、組織に関する権限を有し、それに基づいて、岡山市の実態を踏まえた目標や指標を設定し、独自の教育施策を推進しています。
ここでは、県民の皆様に、岡山県全体の教育の状況をお知らせするため、岡山市における結果も含んだ数値を公表しています。

※ 実施教科等について、小学校の国語・算数と中学校の国語・数学は、PBT（Paper-based testing:冊子を用いた筆記方式の調査）、小学校の児童質問調査と中学校の英語・生徒質問調査はCBT（Computer-based testing:コンピュータ使用型調査）で実施しています。

2 PBTで実施する教科に関する調査の結果

(1) 小学校

《平均正答率(%)》

		国語	算数	合計	差 ※1
R8	岡山県	62	55	117	0
	全国	60.9	56.4	117	

(2) 中学校

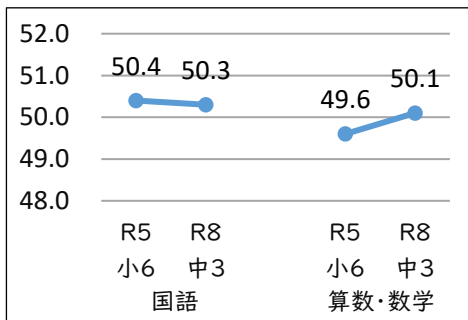
《平均正答率(%)》

		国語	数学	合計	差 ※1
R8	岡山県	65	57	122	+1
	全国	63.9	57.0	121	

※1 全国の合計の小数第1位を四捨五入した値と県の合計との差を算出

(3) 同一集団の標準スコア※2の推移

※2 標準スコアとは、全国の平均正答率を50としたときの換算値



- 小学校の国語及び中学校の国語の平均正答率は、全国より高い。
- 中学校の数学の平均正答率は、全国と同等である。
- ▲ 小学校の算数の平均正答率は、全国より低い。

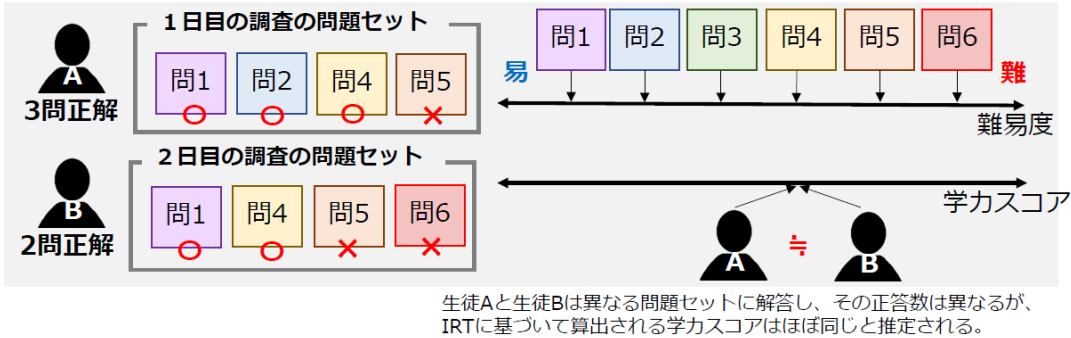
3 CBTで実施する教科（中学校英語）に関する調査の結果

○IRTとは・・・？

＊生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学カスコアを推定する統計理論。
→ 異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテスト結果を互いに比較することができる。

【IRTに基づく調査のイメージ】

調査日を分散して実施する（調査参加日が異なる）場合



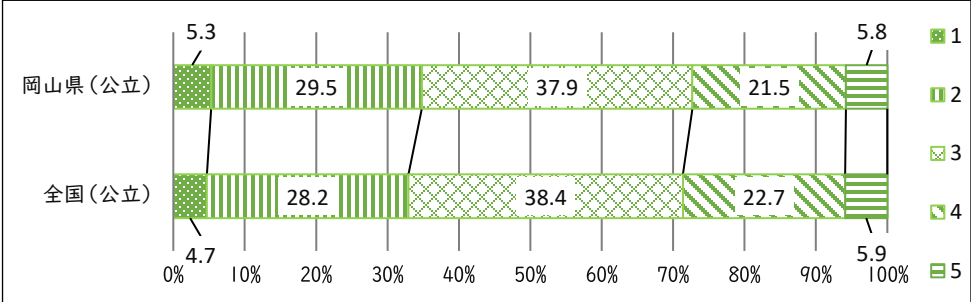
(1) IRTスコア集計値

IRTスコア・・・問題の難易度、正誤パターンから推定し、500を基準にした得点。

	3技能 ※	「話すこと」を含む4技能
岡山県	495～504	9月以降公表の予定
全国	499	

※ 3技能は「読むこと」「書くこと」「聞くこと」。

(2) IRTバンド分布比較（3技能）



※ IRTバンド
IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。

○IRTスコアは全国と同等である。IRTスコア等の分布は全国と同等である。

4 児童生徒質問調査の結果

※ 肯定的回答割合は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合を示す。
※ 各質問項目は、質問調査の質問文をそのまま用いている。

(1) 夢育

《①「当てはまる」と回答した割合、②肯定的回答割合〔単位：％〕》

- ① 将来の夢や目標を持っている（夢・目標）
- ② 自分には、よいところがあると思う（自己肯定感）

		小6		中3	
		夢・目標	自己肯定感	夢・目標	自己肯定感
R8	岡山県	58.0	86.9	38.3	86.4
	全国	58.6	85.6	37.4	84.0

○小学校及び中学校ともに「自己肯定感」の肯定的回答割合は、全国より高い。
▲小学校の「夢・目標」の「当てはまる」と回答した割合は、全国より低い。

(2) 学ぶ意義の実感

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

- ③ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（国語）
- ④ 算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ（算数/数学）

		小6		中3	
		国語	算数	国語	数学
R8	岡山県	91.0	91.7	88.8	79.4
	全国	90.4	91.0	88.2	76.5

○国語・算数〔数学〕ともに肯定的回答割合は、全国より高い。

(3) 学びに向かう力

《肯定的回答割合〔単位：％〕》

- ⑤ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた（主体的な学び）
- ⑥ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている（自己調整力）

		小6		中3	
		主体的な学び	自己調整力	主体的な学び	自己調整力
R8	岡山県	75.3	77.3	77.6	78.3
	全国	77.6	78.4	78.8	79.0

▲小学校及び中学校ともに「主体的な学び・自己調整力」の肯定的回答割合は、全国より低い。

(4) ICT機器の活用

《「ほぼ毎日」は、「1日に複数の授業で活用」と「1日に1回くらいの授業で活用」を合計した回答割合〔単位：％〕》

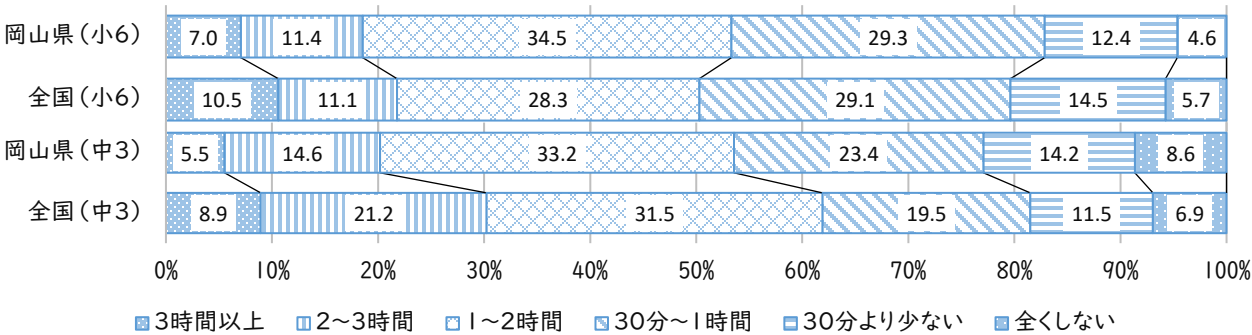
- ⑦ 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

		小6			中3		
		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満	ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上～月1回未満
R8	岡山県	48.1	26.1	25.3	61.7	23.4	14.5
	全国	43.0	25.8	30.6	55.1	23.1	21.4

○小学校及び中学校ともに「ほぼ毎日」と回答した割合は、全国より高い。

(5) 家庭学習の習慣

- ⑧ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



▲中学校は、授業時間以外での「学習1時間以上」と回答した割合は、全国より低い。

今後の取組

※ 岡山市を除く市町村の公立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校等を対象としている。

昨年度の岡山県の課題

- 1 小学校算数における正答率40%以下の割合は全国値より高い。
- 2 中学校は、自己調整力に関わる質問項目の肯定的回答割合及び授業時間以外での「学習1時間以上の割合」が、全国値より低い。

現状

- 1 どの設問においても、無解答率は全国値より低く、基本的な計算や表の読み取り等の設問では改善が見られた(○)ものの、正答率40%以下の割合は依然として全国値より高い(▲)。
- 2 依然として全国値より低い(▲)。

今年度の調査結果から分かったこと

〈学力調査結果から〉

- 国語では、小学校で「話すこと・聞くこと」「読むこと」において、中学校で「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において全国値より高い(○)。
- 算数では、特に「割合」「単位量当たりの大きさ」「図形」といった学習内容で、基本的な概念の理解や定着に課題がある(▲)。

〈児童生徒質問調査結果から〉

- 授業でPC・タブレットなどのICT機器を、「ほぼ毎日使う」と回答した割合は、全国より高い(○)が、学校の授業時間以外にICT機器を、「勉強のために1時間以上使っている」と回答した割合は、全国より低い(▲)。

〈学校質問調査結果から〉

- 「児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか」という質問で肯定的回答をした割合は、小学校では全国値より高く(○)、中学校では全国値より低い(▲)。

今年度の県教委の取組

岡山県における継続的な課題の解決に向け、ターゲットを明確にした取組を推進する。

【重点取組①】 小学校算数指導資料を活用した指導改善

- 小学校算数の授業改善に向けた指導資料を配付し、管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問等あらゆる機会を通じて、県内（岡山市を除く。）の公立小学校に対して指導助言を行う。また、「小学校算数指導力向上モデル研究事業」の研究指定校や市町村教育委員会の実践を支援し、指導力向上に向けた効果的な取組モデルを県内に周知する。
- 集団から個へと階層的なアプローチによるつまづき解消を目的とした「多層的支援システム構築事業」の研究指定校において一定の成果が見られることから、その実践や考え方を県内に周知する。
- 育成を目指す資質・能力の発達の系統や、各領域の学習内容相互の関連を意識し、個に応じた指導に活かすことのできる問題を1人1台端末で活用できるようにする。
- 「主体的な学びの基盤づくり事業」により、支援員等を配置することで、各学校が小学校算数指導資料【別冊】を活用し、実施する補足的な学習指導を支援する。

【重点取組②】 家庭学習を支える仕組みづくりの推進

- 各教科において、児童生徒が学ぶ目的を明確にして意欲的に学習に取り組めるよう課題解決型学習(PBL)を推進し、学ぶ力の育成を行う。
- 授業改革推進チームを核として作成した資料等を活用するなどして、家庭学習の推進を図る考え方等を県内に周知する。
- 学校の学びと家庭での学びを連動させ、情報活用能力及び自己調整力を向上を目的とした「生成AIを活用した学びのサイクル実証事業」の研究指定校において一定の成果が見られることから、その実践や考え方を県内に周知する。

その他の取組

- 管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問や各種研修等を通して、学校経営力と教員の授業力の向上を図る。
- 次期学習指導要領改訂の方向性を踏まえ、探究的な学びを支える情報活用能力の抜本的向上に向けて、指導力の向上を図る。